

沖繩科學技術大学院大學概要

The Okinawa Institute of Science and Technology



2006年3月

沖 繩 県

沖繩科學技術大学院大學設置促進県民会議



目次

I 沖縄科学技術大学院大学構想の概要	1
1)設置の目的	
2)基本コンセプト	
3)教育・研究分野	
4)魅力的な環境整備	
5)大学院大学関連予算(2005年度)	
6)大学院大学関連予算(2006年度)	
II 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構	3
1)概要	
2)運営体制	
III 施設整備(マスタープラン)	4
1)キャンパス所在地	
2)全体敷地面積	
3)施設計画の概要	
IV 先行的事业	7
1)研究事業	
2)国際シンポジウム	
3)国際ワークショップ	
V 沖縄県の取り組み	9
1)研究都市形成に関する調査	
2)県民フォーラム(講演会)の開催	
VI 大学院大学と沖縄振興	10
1)大学院大学を核とした知的クラスターの形成	
2)アジア太平洋地域との学術交流の推進	
3)大学院大学と人材育成	
VII 資料編	12
1)取り組み状況	
2)沖縄県の概要	
3)関係機関一覧	

I 沖縄科学技術大学院大学構想の概要

1) 設置の目的

- 沖縄に、自然科学系の世界最高の研究・教育水準を有し、国際的で柔軟性を持った大学院大学を設置することにより、
 - 世界の科学技術の発展に寄与する
 - 沖縄をアジア・太平洋地域の先端的頭脳集積地域として発展させ、その経済的自立を図る等を目的としている。

2) 基本コンセプト

- 世界最高水準 (Best in the world)
世界トップクラスの英知を結集し、世界最高水準の大学を目指す。
- 国際性 (International)
講義や会議等は英語で行い、教授や学生の半数以上を外国人とする。
- 柔軟性 (Flexible)
国設民営を基本に、政府が資金を提供し、運営は学校法人等により行われる。
- 世界的連携 (Global networking)
世界の一流大学との研究協力や共同研究を行う。
- 産学連携 (Collaboration with industry)
企業との共同研究や研究成果の産業化に取り組むとともに、基金や施設への寄付など企業側の積極的協力を求める。

3) 教育・研究分野

- 生命システムを中心的な課題とし、生物学、物理学、化学、コンピューティング、ナノテクノロジーなどを融合した領域とする。

4) 魅力的な環境整備

- 広く快適な住宅や寮の提供
- 教授や職員の子弟のための教育環境整備
- 学生への十分な奨学金や財政援助制度

5) 大学院大学関連予算 (2005年度)

- 国 (総額：5,139百万円)
 - 整備法人運営等経費：914百万円
 - 沖縄科学技術大学院大学設立構想の施設整備に必要な経費：1,034百万円
 - 先行的事業：3,141百万円
 - その他経費：50百万円
- 沖縄県 (総額：43百万円)
 - 沖縄科学技術研究都市整備計画策定経費：25百万円
 - 研究者交流事業：2百万円
 - 大学院大学設置促進県民会議補助金：9百万円
 - その他経費：7百万円

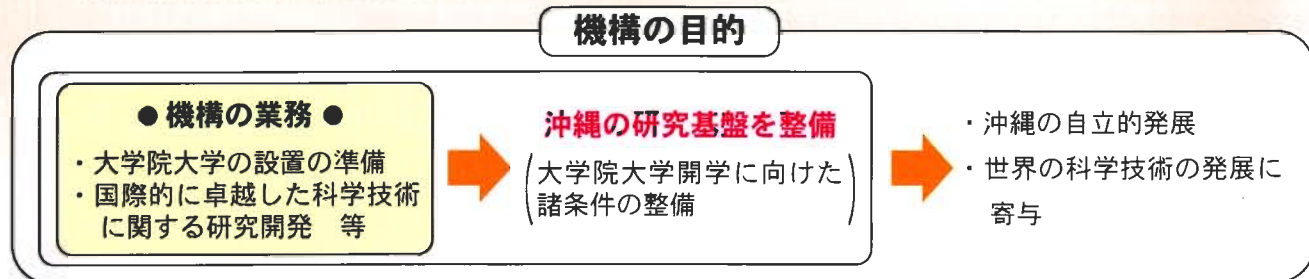
6) 大学院大学関連予算 (2006年度)

- 国 (総額：7,702百万円)
 - 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構運営費交付金：4,148百万円
運営費交付金の内訳見通し
 - ・ 管理費 687百万円
 - ・ 研究事業費 3,227百万円
 - ・ 国際ワークショップ 181百万円
 - ・ 環境調査統計費 53百万円
 - 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構施設整備費補助金：3,530百万円
 - その他経費：24百万円
- 沖縄県 (総額：36百万円)
 - 沖縄科学技術研究都市整備計画策定経費：23百万円
 - 研究者交流事業：1百万円
 - 大学院大学設置促進県民会議補助金：8百万円
 - その他経費：4百万円

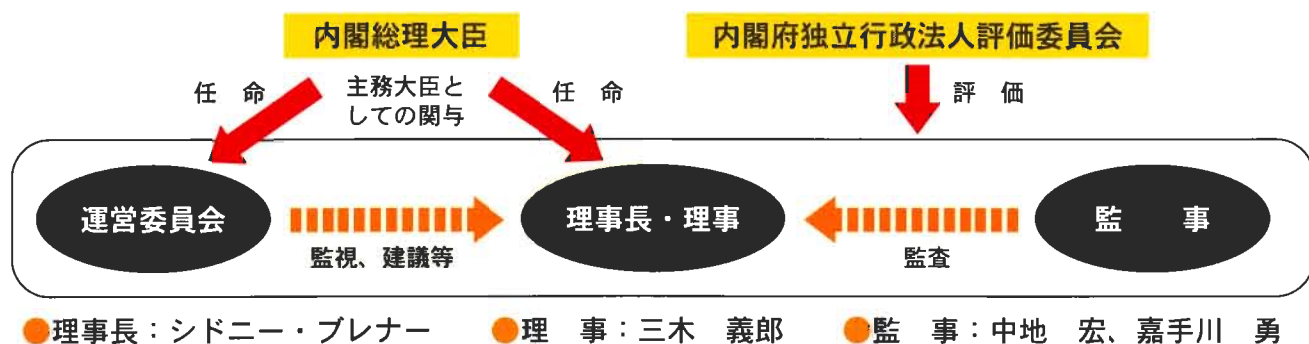
II 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構

1) 概要

沖縄に自然科学系の世界最高水準の国際的な大学院大学を創設する準備のため、独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構が平成17年9月1日に設立。



2) 運営体制



シドニー・ブレナー理事長について

1927年1月 南アフリカ連邦生まれ(英国籍)
1954年 オックスフォード大学にて博士号取得
これまで、MRC分子生物学研究所長、ソーク研究所栄誉教授等を歴任。
現在は、シンガポール科学技術庁(A*STAR)ボード・メンバー兼生物医学研究会議議長を兼ねる。
2002年「組織の発達と細胞死に関する遺伝子による制御に関する発見」により、ノーベル生理学・医学賞を受賞。
我が国でも1990年に京都賞を受賞。

運営委員会(ボード・オブ・ガバナーズ)委員

- 黒川 清 日本学術会議議長、運営委員会議長
- 有馬 朗人 日本科学技術振興財団理事長/元東京大学総長
- スティーブン・チュウ ローレンス・バークレー国立研究所所長(1997年ノーベル物理学賞受賞)
- ジェローム・フリードマン マサチューセッツ工科大学教授(1990年ノーベル物理学賞受賞)
- ジャン＝マリー・レーン ルイ・パスツール大学教授(1987年ノーベル化学賞受賞)
- 尚 弘子 琉球大学名誉教授
- 利根川 進 マサチューセッツ工科大学教授(1987年ノーベル生理学・医学賞受賞)
- トーステン・ヴィーゼル ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム事務局長(1981年ノーベル生理学・医学賞受賞)

III 施設整備(マスタープラン)

1) キャンパス所在地

■ 沖縄県恩納村字谷茶、南恩納地区

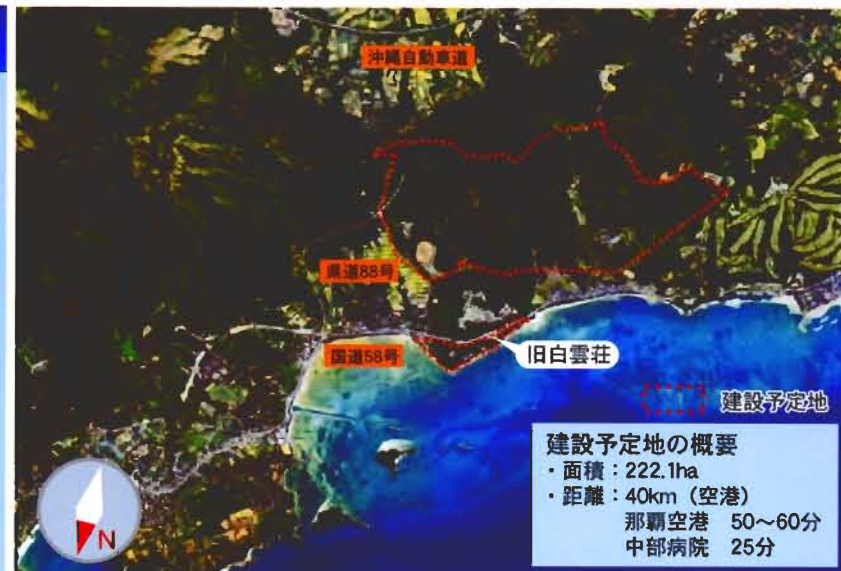
2) 全体敷地面積

■ 222.1ha (丘陵地区部分：約213.4ha、海岸地区部分：約8.7ha)

開発想定区域は、

- メインキャンパス(丘陵地区)の約80ha
- シーサイドキャンパス(海岸地区)の約8.7ha

建設予定地(恩納村)



建設予定地の概要

- ・ 面積：222.1ha
- ・ 距離：40km(空港)
那覇空港 50~60分
中部病院 25分

3) 施設計画の概要

キャンパス整備の基本コンセプト

世界最高水準の大学院大学にふさわしい、斬新かつ国際色あふれるキャンパスを実現するために、次の3点をキャンパス整備の基本コンセプトとしています。

(1) 自然環境との調和と最先端テクノロジー

- ・ 美しく優れた自然環境と調和したキャンパス
- ・ 地球環境に配慮した環境共生型のキャンパス
- ・ 最先端のテクノロジーを利用したキャンパス

(2) 融合と交流

- ・ 融合的な研究や教育を実践できる世界最高水準の施設
- ・ 研究者間の相互作用を最大限に増幅させる空間
- ・ 研究や教育の融合や変化に柔軟に対応できる空間
- ・ 地元が開かれた交流の空間

(3) 連携・ネットワーク

- ・ 国内外の一流大学や研究機関等との連携
- ・ 産業界と協働して研究成果を事業化
- ・ 国際シンポジウムやワークショップ等を開催

○メインキャンパス

丘陵部のメインキャンパスでは、メインアクセス側に生活関連施設を、山側に研究・実験施設を配置します。両施設を、湖上の歩行者用回廊、トンネル状のギャラリー、30mの高さのエレベーターで立体的に結びます。

研究者の日常の生活の場である生活関連施設には、レストラン、ショッピング街、オーディトリウムを設け、地域住民、観光客を含む来訪者との交流の場となるようにします。

研究・教育の主要な場となる研究・実験施設には、研究室、実験室、セミナー室等を含む複数の研究・実験棟を配置し、研究者間の活発な交流により、融合研究の舞台となることが期待されています。

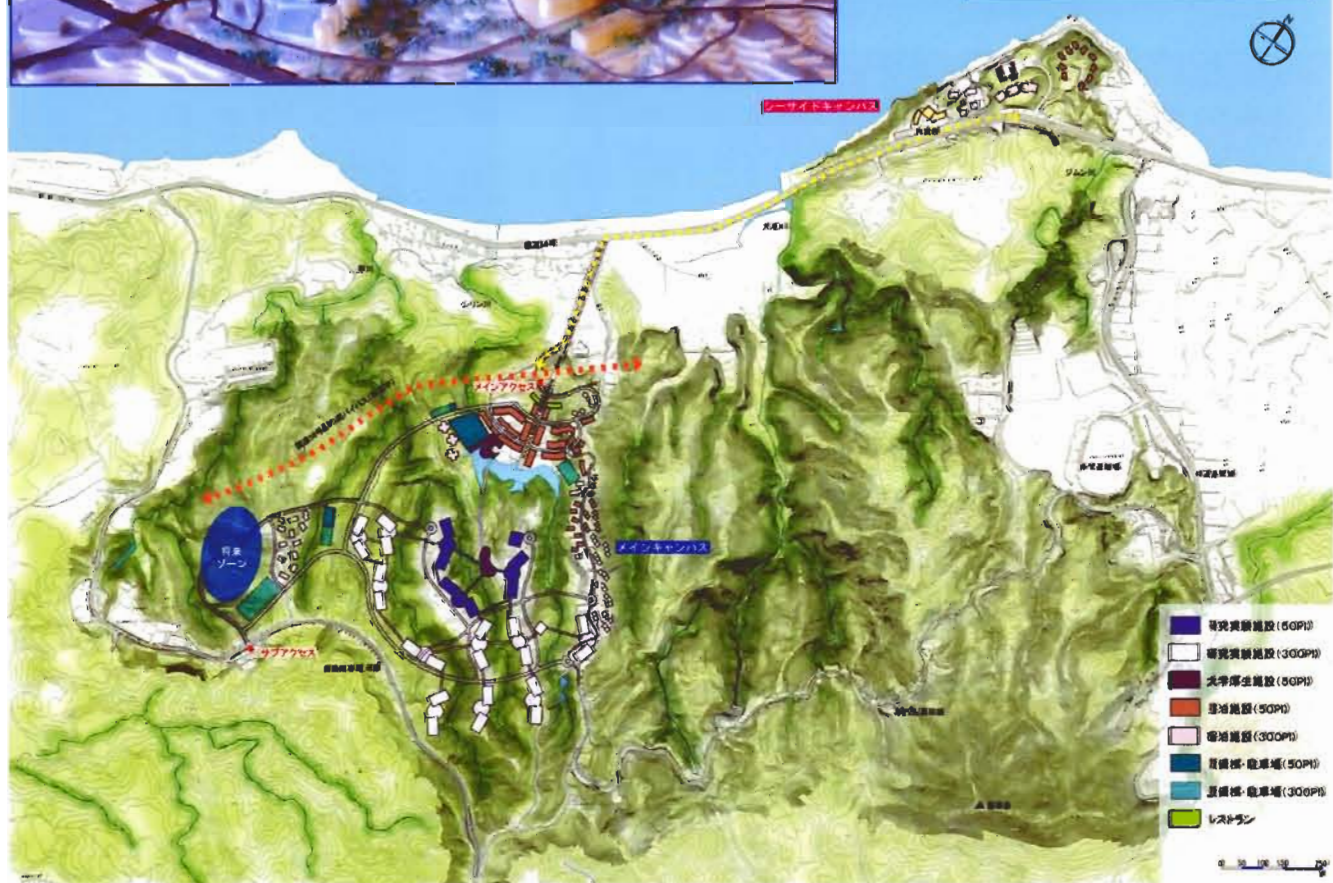
研究実験棟は、クラスター状（部分的には集中、全体的には分散）に配置され、各クラスターを空中回廊で結びます。

図書館、講義室、カフェテリア等の共用施設を研究・実験ゾーンの中央に置きます。また、研究・実験施設の東側（現在の林道沿い）には、主任研究者用の低層住居を配置します。

●キャンパス模型写真



●キャンパス全体配置図



○シーサイドキャンパス

風光明媚な海岸地域に、セミナー施設、住居、ファカルティークラブ、厚生施設などを配置します。

改修後のセミナーハウス
(外観イメージ図)



○施設規模

主任研究者 50人規模 (50PI) で建物面積約 7 万 m² となります。

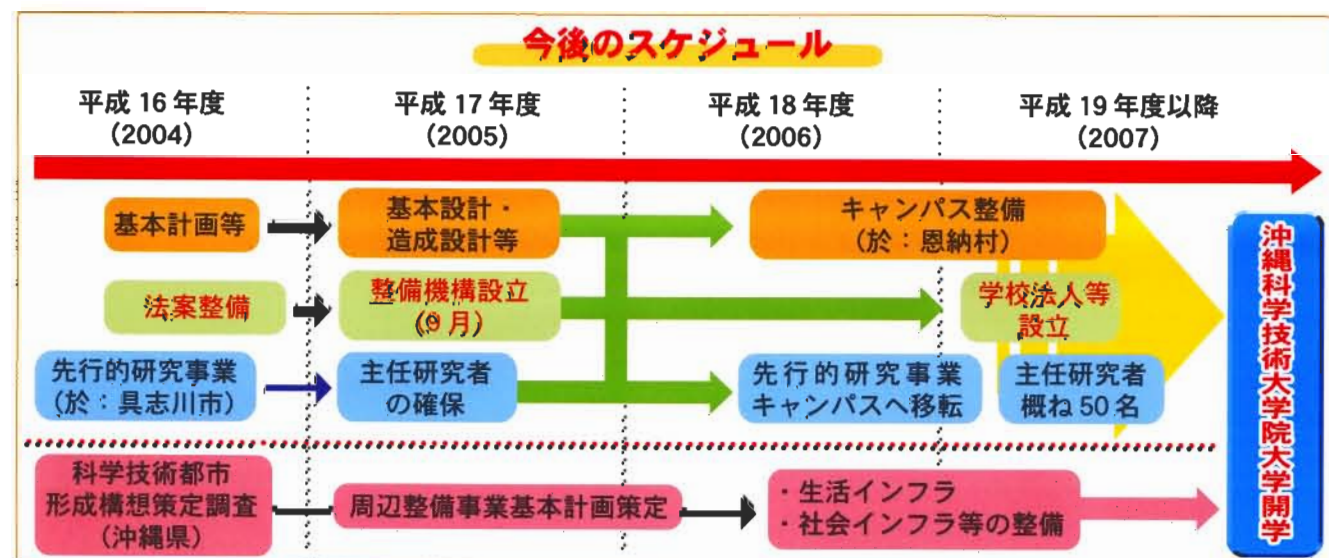
(全体配置図では濃い色の箇所、模型では水色の建物)

将来構想としては主任研究者 300人程度 (300PI) で建物面積約 25 万 m² の規模となります。

○設備整備スケジュール

メインキャンパスについては、2006年度末に造成工事に着手し、2008年度末までには施設の一部を供用開始する予定です。

シーサイドキャンパスは、旧白雲荘を改修して、セミナーハウス、機構の事務局として使用します (2006年3月完成予定)。



開学時期：今後 7 年程度以内を目標に沖縄科学技術大学院大学の実現を期する (平成 17 年 12 月 20 日関係関係申合せより)

IV 先行的事業

1) 研究事業

大学院大学において研究・教育活動を行うことに関心を有する国内外の卓越した研究者を招聘し、沖縄を拠点に研究を行うとともに、当該拠点と国内外の大学、研究機関との交流を支援することにより、大学院大学構想の知名度向上、科学者ネットワークの形成及び沖縄の科学技術の振興を図ることを目的としています。

平成15年度、28ヶ国の研究者より寄せられた137件の応募課題より4名の代表研究者の課題が選ばれ、沖縄県うるま市において研究を開始しています。また、平成17年度には、新たに3名の代表研究者が決定し、開学に向けた研究者の拡充が進められています。

先行的研究事業 代表研究者と研究課題



記憶と学習の分子神経生物学ユニット

遠藤 昌吾 博士 「記憶と学習の機構を担う分子機構の解析」
脳の基本機能である記憶という生命現象をとりあげ、分子生物学的手法やジーンターゲットングさらに行動科学的手法などを融合的に用いて記憶や神経可塑性を担う分子機構の解明をめざします。



電子線ホログラフィーユニット

外村 彰 博士 「ナノテクノロジーに向けたホログラフィー電子顕微鏡の研究」
電子のもつ波の性質を利用した特殊な電子顕微鏡を開発して1オングストローム以下の世界を観察し、物質が極限状態まで小さくなったときに現れる量子現象を明らかにしながら、ナノテクノロジーやバイオテクノロジーへの応用を図ります。



G0細胞ユニット

柳田 充弘 博士 「飢餓状態におけるG0期への停止維持と栄養増殖開始の細胞戦略」
分裂酵母菌を使って、細胞分裂が停止したり、栄養状態の変化により再び細胞分裂が開始される時の分子生物学的な変換メカニズムの解明を目指します。細胞分裂のコントロールが可能になれば、医薬品開発やバイオテクノロジー等様々な分野で応用できます。



神経計算ユニット

銅谷 賢治 博士 「心の分子機構への計算理論的アプローチ」
人間の心の生物学的基盤を、トップダウン的な理論モデルとボトムアップ的な生物学的実験の融合により理解することを目的とし、理論的・生物学的・工学的なアプローチを組み合わせることにより、動的システムモデルの新たなソフトウェア、人の感情にも似た高度な適応機能をもつロボット、さらに心の障害の治療と予防のための新たなアプローチの開発をめざします。

分子神経科学ユニット (仮称)



代表研究者

シドニー・ブレナー 博士



代表研究者

丸山 一郎 博士



代表研究者

内藤 隆之 博士



沖縄科学技術研究・交流センター (うるま市)



研究風景

2) 国際シンポジウム

最新の研究成果の発表や意見交換を行う場を提供するとともに、大学院大学設立構想を広く国内外の科学者に伝えることを目的としたものです。

【第1回国際シンポジウム】

日時 平成15年10月16日～18日 (3日間)

場所 万国津梁館

タイトル 分子科学・システムに関する新しい領域：統合的アプローチ

内容 特別講演、基調講演、大学院大学構想に関するパネルディスカッション、3テーマに分かれての分科会、ポスター発表、学術パネルディスカッション

参加者 351名 (うち国内260名、海外91名)



大学院大学に関するパネルディスカッション



締めくくりパネルディスカッション

3) 国際ワークショップ

大学院大学開学に向けて優秀な研究者及び学生の獲得につながる国際的な人材ネットワークを形成することを目的に、著名な科学者が講師となり、若手研究者や大学院レベルの学生等に対して講義を行う集中講座を年に1～2回開催しています。

【これまでの参加者合計】

講師・チューター：93人 (うち 海外68人、国内25人)

受講生：162人 (うち 海外140人、国内22人)



第2回ワークショップ
オーガナイザー / 銅谷賢治博士



第3回ワークショップ
オーガナイザー / 榎佳之博士他

V 沖縄県の取り組み

1) 研究都市形成に関する調査

沖縄県は、自立型経済の構築に向け、沖縄科学技術大学院大学を核とした知的クラスターの形成を沖縄振興の基本方向に位置づけ、学術研究・交流拠点の形成を目指しています。

●拠点形成に向けた取り組み

- ・研究環境の充実、居住環境や利便性の向上等、立地環境の整備
- ・産学連携や新産業創出機能を備えた基盤の整備



スタンフォード大学周辺住宅地（スタンフォードウエスト）

2) 県民フォーラム（講演会）の開催

県民会議では、科学技術に関する理解を深めるとともに、大学院大学設置への関心を高めるため、県民フォーラム（講演会）の開催など各種事業を実施しています。



高校生を対象とした第2回県民フォーラム

【平成16年度（第3回）】

「記憶と学習に関する先端的研究の現状について」をテーマに、県内教職員を対象とした講演会を開催。

講師：遠藤昌吾博士（大学院大学先行的研究事業 代表研究者）

参加者：約200人（うち、教職員約100人）



VI 大学院大学と沖縄振興

科学技術は、21世紀の沖縄の社会経済を発展させる大きな原動力となるものです。科学技術から得られる知的資産の集積は、新たな技術革新を促進し、新しい産業の創出や、既存の産業の高度化、市場競争力の向上に寄与するだけでなく、医療・福祉、環境、食料・エネルギー問題の解決など、県民の生活全般にわたる質の向上につながります。

1) 大学院大学を核とした知的クラスターの形成

大学院大学の設立は、我が国の科学技術の進歩の一翼を担うとともに、大学院大学を中心に他の大学や公的研究機関及び民間企業・研究所の集積による知的クラスターの形成を促し、本県をアジア・太平洋地域の先端的な頭脳集積地域として発展させることができます。将来的には大学院大学と県内企業や研究機関との産学連携の共同研究に発展し、新たな産業の創出、産業の高度化につながります。



わたしたちの未来絵画コンクール（金城寛弥／南星中学校2年）

2) アジア太平洋地域との学術交流の推進

沖縄県は、アジア・太平洋地域における学術研究・交流拠点の形成を目指しており、これらの地域の国々が抱える地球規模の諸問題に関する学術研究や情報発信ができる研究拠点の整備を図り、これらの国々との学術交流・協力を積極的に進めています。

例えば、亜熱帯総合研究所では、サンゴ礁保全やマングローブ研究、亜熱帯農業技術等、沖縄の亜熱帯特性を活用した科学学術研究を推進し、他の亜熱帯・熱帯諸国との国際協力や技術交流にも貢献しています。

また、ハワイ州等の地域間協力を促進し、島嶼地域への遠隔医療システムを用いた医療協力体制づくりを進めています。

2000年に開催されたサミット首脳会合の開催地としての実績や沖縄のリゾート性を活かして、様々な国際会議の誘致にも積極的に取り組み、コンベンション・アイランドの形成を目指しています。これまで、サミットのメイン会場となった万国津梁館を中心に多くの国際的な会議が開催され、大学院大学の第1回国際シンポジウムや第2回国際ワークショップも開催されました。

3) 大学院大学と人材育成

大学院大学は、県内における人材の育成や、人材の高度化にもつながります。世界的水準の大学院大学や民間研究機関の立地は、次代を担う子供たちにとっても、科学技術への関心を高める刺激になります。将来的に県内からも国際的に活躍する研究者や技術者、さらにはノーベル賞受賞者が誕生することも夢ではなくなるでしょう。

1) 取り組み状況

2001 (平成 13 年)

- 6月 ● 尾身沖繩及び北方担当大臣（当時）が「沖縄新大学院大学構想」を発表。
- 8月 ● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（座長 有馬朗人元東京大学総長）による検討開始。
- 10月 ● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（第2回）開催。
- 11月 ● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（第3回）開催。

2002 (平成 14 年)

- 2月 ● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（第4回）開催。
- 4月 ● 沖縄振興特別措置法施行。
● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（第5回）開催。
● 第1回「国際顧問会議」をロサンゼルス近郊にて開催。
ノーベル賞受賞者を含む国際的な研究者が集まり、構想に関し、様々な提言を行った。
- 5月 ● 沖縄復帰30周年記念式典において小泉総理大臣が、政府として新大学院大学の設立構想を推進すると発言。
- 6月 ● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（第6回）開催。
● 第2回「国際顧問会議」を沖縄県名護市にて開催。
- 7月 ● 「沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議」発足。
- 12月 ● 沖縄県が3カ所の建設候補地を国に推薦。
● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（第7回）開催。

2003 (平成 15 年)

- 1月 ● 第3回「国際顧問会議」をサンフランシスコ近郊にて開催。
● 第156回通常国会で小泉総理大臣が施政方針演説。
「世界に開かれた世界最高水準の教育研究を行う科学技術大学院大学の設立構想を沖縄で推進します」と発言。
- 3月 ● 「沖縄新大学院大学構想検討会」（第8回）開催。
● 沖縄新大学院大学県民フォーラム開催（第1回）。
「沖縄新大学院大学をいかに実現させ、どう活かすのか」をテーマに実施。
- 4月 ● 大学院大学の予定地に関する決定。
恩納村を前提に、施設計画を含めた大学等の全体計画の策定作業を進めることを決定
- 6月 ● 第1回評議会の開催。
大学院大学の教育・研究分野、組織の構成等、構想の具体化のための検討を行う。
（議長 フリードマン MIT 教授）。

2003 (平成 15 年)

- 10月 ●第1回国際シンポジウム開催。
「分子科学・システムに関する新しい領域：統合的アプローチ」をテーマに実施。

2004 (平成 16 年)

- 1月 ●第159回通常国会で小泉総理大臣が施政方針演説。
「沖縄県恩納村に、世界に開かれた世界最高水準の教育研究を行う科学技術大学院大学を設立する構想を推進します」と発言。
- 2月 ●大学院大学学長にシドニー・ブレナー博士の就任が内定。
●先行的研究事業として、世界各国137件の応募の中から4件のプロジェクトを採択。
- 3月 ●第1回国際ワークショップ開催。
●沖縄科学技術大学院大学県民フォーラム開催(第2回)。
「科学技術の発展と大学院大学への期待」をテーマに実施。
- 7月 ●第1回沖縄科学技術大学院大学ボード・オブ・ガバナーズ会合開催。
- 9月 ●第2回沖縄科学技術大学院大学ボード・オブ・ガバナーズ会合開催。
- 11月 ●第2回国際ワークショップ開催。

2005 (平成 17 年)

- 1月 ●第3回沖縄科学技術大学院大学ボード・オブ・ガバナーズ会合開催。
- 2月 ●第3回国際ワークショップ開催。
- 3月 ●大学院大学構想の推進主体を設立する独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構法が国会にて可決。
●沖縄科学技術大学院大学講演会開催(第3回)。
「記憶と学習に関する先端的研究の現状について」をテーマに実施。
- 4月 ●第4回沖縄科学技術大学院大学ボード・オブ・ガバナーズ会合開催。
- 8月 ●シドニー・ブレナー博士を沖縄科学技術研究基盤整備機構の初代理事長として指名。
- 9月 ●独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構が発足。

2006 (平成 18 年)

- 1月 ●整備機構主催第1回運営委員会(ボード・オブ・ガバナーズ)会合開催。
●施設整備マスタープラン策定。

今後の予定

施設等の整備を進めながら研究者の確保を図り、主任研究者が50人に達した時点を目途に開学。
(平成17年12月の関係閣僚会合で、今後7年程度以内を目途に開学を目指すことが申し合わされた)

2) 沖縄県の概要

●沖縄県の概要

沖縄県は、日本列島の南端に位置し、九州から台湾の間に連なる琉球列島の南半分を占めています。東西1000km、南北400kmの広大な海域に、大小160の島々が広がっており、そのうち40が有人島です。面積は2,272km²で、日本全体の0.6%です。

沖縄県の人口135万人のうち9割が沖縄本島に住んでいます。県都那覇市の人口は30万人で、政治、経済の中心として発展しています。

毎年、多くの観光客が本県を訪れ(2005年、550万人)、那覇市をはじめ多くの観光地はにぎわいを見せています。2003年8月には、那覇空港へのアクセスを向上させる沖縄都市モノレールが開通しました。今後、那覇空港自動車道や沖縄西海岸道路、臨港道路(空港線・浦添線)の完成等により、利便性が大きく向上することになります。

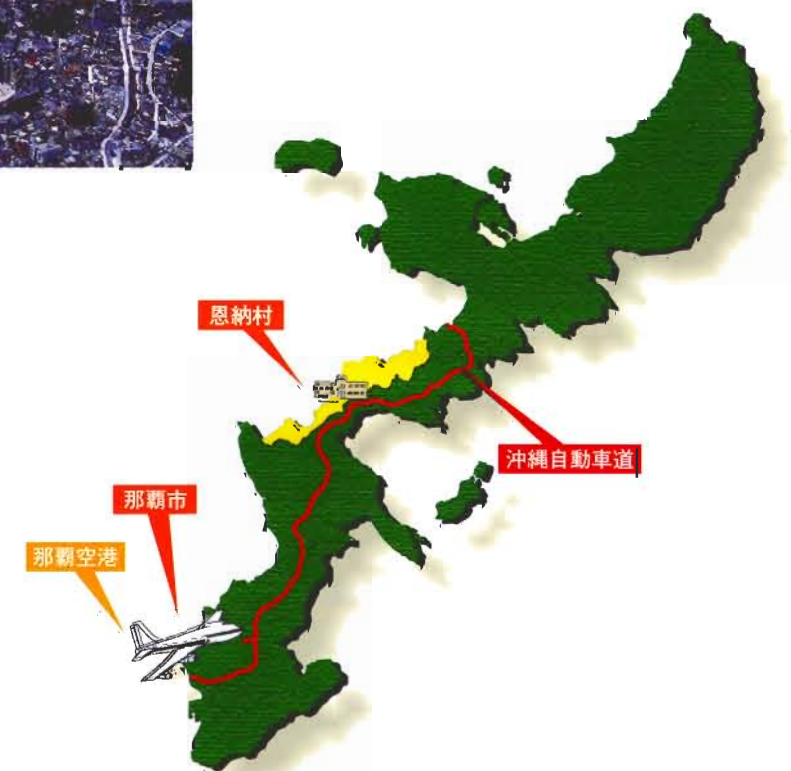


県都那覇市

沖縄都市モノレール



那覇市中心街



●国際航空ネットワーク

沖縄県は、日本本土とアジアの結節点に位置し、地理的優位性を活かした交流を通して近隣諸国と結びつきを強め、我が国の国際交流の南の拠点としての役割を担い、21世紀の世界に開かれた地域を目指しています。

南の国際交流拠点としての役割を果たすため、空の玄関口である那覇空港の整備も進められています。1999年には、増加する航空需要と路線の拡大に対応して、那覇空港国内線ターミナルが新しく生まれ変わりました。将来的には、国際航空路線の拡大とともに、利用客や貨物航空便の増加にも対応できるように、施設整備を促進しています。



●自然

日本で唯一亜熱帯地域に属する沖縄県は、一年中温暖な気候に恵まれ、紺碧の空とエメラルドグリーンのにぎやかな海に囲まれたリゾート地です。世界的に貴重な動物をはじめ、亜熱帯特有の動植物が多数生息する他、島々は豊かなサンゴ礁に囲まれており、その特色ある自然は、観光・保養地として人気を集めています。



沖縄本島北側の山



豊かなサンゴ礁に囲まれた沖縄本島西海岸

●生活環境

世界一の長寿国となった日本、その中でも最も長寿の地域として知られているのが沖縄です。温暖な気候、バランスの良い食生活、ゆったりした生活リズム、地域の結びつきなど、沖縄県民の暮らしや生き方が、世界中から熱い視線を集めています。

こうした快適で潤いのある生活環境を支えるため、今後とも、空港、港湾、陸上交通の整備を進めるとともに、上下水道、公園、緑地など、住環境の整備を図っていきます。



アジアのトランシップ港を目指す那覇港(完成予想図)



沖縄県立中部病院



自然科学系の学部を有する琉球大学

3) 関係機関一覧

●内閣府沖縄振興局新大学院大学企画推進室

- ・住所：東京都千代田区霞ヶ関 3-1-1 中央合同庁舎第4号館 10階
- ・電話：03-3581-9974
- ・FAX：03-3581-0952
- ・ホームページ：<http://www.cao.go.jp/>

●独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構

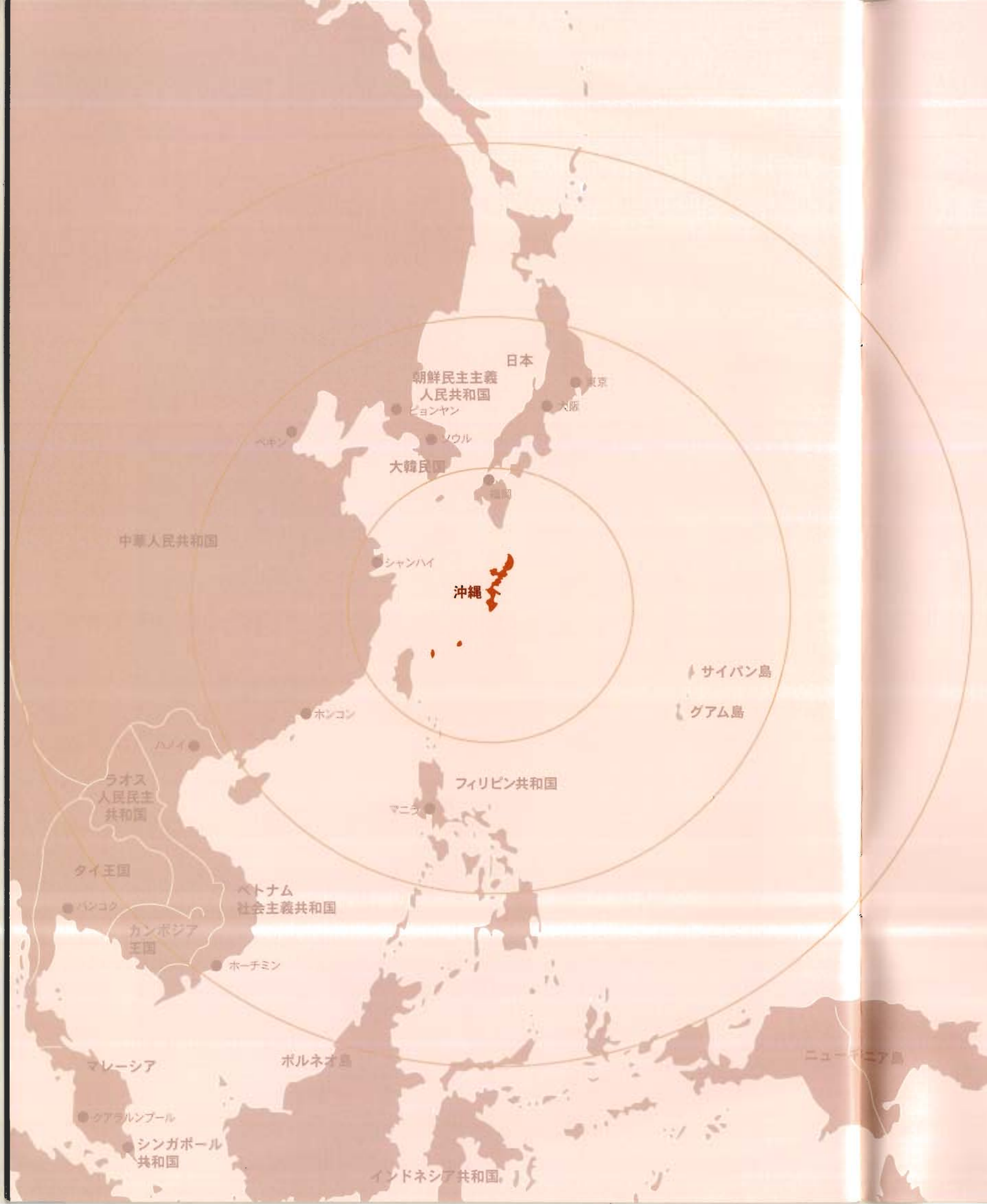
- ・住所：沖縄県うるま市州崎 12-22
- ・電話：098-934-8441
- ・FAX：098-934-8448
- ・ホームページ：<http://www.oist.jp/j/index.html>

●沖縄県企画部科学技術振興課

- ・住所：沖縄県那覇市泉崎 1丁目 2番 2号
- ・電話：098-866-2560
- ・FAX：098-866-2799
- ・ホームページ：<http://www.pref.okinawa.jp/kagaku/>

●恩納村企画課沖縄科学技術大学院大学推進室

- ・住所：沖縄県恩納村字恩納 2451番地
- ・電話：098-966-1201
- ・FAX：098-966-2779
- ・ホームページ：<http://www.vill.onna.okinawa.jp/>



日本

朝鮮民主主義
人民共和国

●ピョンヤン

●ソウル

大韓民国

●福岡

●沖繩

●シヤンハイ

中華人民共和国

●ペキン

●東京

●大阪

↑サイパン島

↑グアム島

●ホンコン

●ハノイ

ラオス
人民民主
共和国

フィリピン共和国

●マニラ

タイ王国

●バンコク

ベトナム
社会主義共和国

●ホーチミン

カンボジア
王国

マレーシア

●クアラルンプール

シンガポール
共和国

ボルネオ島

インドネシア共和国

ニューギニア島

沖縄県企画部 科学技術振興課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

TEL : 098-866-2560 FAX : 098-866-2799 Email : aa012100@pref.okinawa.jp